



もてなしの心で語る わが街

# えな自慢

えな自慢  
えな史 23

## 大井宿(おおいしゆく)

県内十七宿で一番のにぎわい



大井宿本陣跡

### ひとくメモ

1993(平成5)年に結成された「中山道かたりべの会」は、訪れた方々のガイドをするなど、もてなしの心で活動している。

また現在、大井宿では「第2回中山道大井宿のれんアートコンテスト」が、5月16日(日)まで開催中。

大井宿は江戸日本橋から数えて46番目の宿場。かつては美濃路随一の宿場として栄え、全国でも9番目の盛況ぶりだったという。宿場内には、外敵を防ぐ目的で、街道が直角に曲がる枅形が6カ所造られているが、これほどたくさんあるのは中山道の宿場ではここだけ。また、大井宿本陣(高貴な人たちの宿泊所)は、1947(昭和22)年に全焼したが、表門、庭園は今も残り、往時の面影をしのぶことができる。なお、2000(平成12)年には、江戸時代の豪壮な商家古山家住宅を市が復元整備した「中山道ひし屋資料館」がオープン。重厚な町屋の建物を肌で感じながら、街道や宿場の知識を深めることができる。

## ヒトツバタゴ

日本最大の木が存在

えな自慢  
えな樹 24



国指定天然記念物、市木のヒトツバタゴ(笠置町)

### ひとくメモ

ヒトツバタゴの名の由来は、「一つ葉(単葉)のタゴ(トネリコ)」から。同種のタゴは複葉であるが、ヒトツバタゴは単葉。また珍しい木であるため、ナンジャモンジャ、アンジャモンジャ、六道木、ナタオラシなど、各地でいろいろな名前と呼ばれている。

ヒトツバタゴはモクセイ科の落葉高木。日本では、対馬と、愛知県、岐阜県の木曾川周辺のごく限られた地域に自生している。雌雄異株で5月中旬から下旬にかけて細かい白い花をいっぱい咲かせ、遠くから見ると雪をかぶったように美しい。市内には多くのヒトツバタゴの自生地があり、その中で、笠置町姫栗の自生のヒトツバタゴは、本州では最初に国の天然記念物に指定されている。また、このヒトツバタゴは、国内では最も標高が高いところに咲くヒトツバタゴである。そのほかには、大井ヒトツバタゴ(大井町古瀬)、中野方ヒトツバタゴ自生地(中野方町太田、赤又駄)、明智町ヒトツバタゴ(新井、大真菰、大庭)が県の天然記念物に指定されている。



新井のヒトツバタゴ(明智町)

次号は5月15日号  
発行日は5月14日(金)です

広報えな No.127  
2010年(平成22年)  
5月1日発行

発行 恵那市役所 / 編集 企画課広報広聴係  
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎26-2111 / ☎25-6150  
<http://www.city.ena.lg.jp/> ✉info@city.ena.lg.jp

『広報えな』5月1日号、1部当たりの印刷経費は約9.5円(税込み)です。



恵那市安心安全メール配信システム  
登録用QRコード  
□問い合わせ 防災情報課(内線317)

『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。  
この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい大豆油を使用したインキで印刷されています。

